



日本地球化学会ニュース

No. 262 September 2025

Contents

学会からのお知らせ	2
● 日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2025 年大会報告	
● Goldschmidt 国際会議 2025 報告	

学会からのお知らせ

●日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2025 年大会報告

日本地球惑星科学連合 (Japan Geoscience Union; JpGU) の年次大会 (以下, 連合大会) は, その前身である地球惑星科学関連学会合同大会を含めると 1990 年から開催されている地球惑星科学に関連する日本最大の学術会議です。2022 年度から現地開催とオンラインのハイブリッド方式で開催され, 今年も引き続きハイブリッド方式で開催されました。

口頭発表のセッションは, 5 月 25 日 (日) から 30 日 (金) にかけて幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市) と同国際展示場ホール 7・8 を会場として現地開催され, オンライン参加者も Zoom を介して講演と視聴ができるハイブリッド形式で行われました。ポスター発表は, 国際展示場ホール 7・8 ポスター会場における現地での発表を基本とし, オンライン学術会議システム Confit 上の e-poster で掲示することとなりました。

今回の全発表論文数は 5,253 件, 去年の 4,665 件に比べて 12.6% 増であり, 大幅に発表数が増加しています。また, 参加登録者数は 9,319 名と去年の全参加者数 (8,372 名) と比べて 11.3% 増となっています。現地来場者数は, 昨年比 11% 増の 7,903 名で, 順調に参加者が増加しているような印象を受けました。

今回は, 以下の 9 つのセッションが日本地球化学会の共催セッションとして開催されました。

- ・ U-02 [E] 人新世・第四紀の気候および水循環
- ・ A-HW28 [E] 水循環・水環境
- ・ A-CG50 [J] 海洋表層-大気間の生物地球化学
- ・ S-VC35 [9] 火山の熱水系
- ・ S-GC38 [J] 固体地球化学・惑星化学
- ・ M-IS06 [E] Evolution and variability of the Tropical Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era
- ・ M-IS14 [J] 古気候・古海洋変動
- ・ M-IS20 [J] 海底のメタンを取り巻く地圏-水圏-生命圏の相互作用と進化
- ・ M-ZZ42 [J] 地球化学の最前線: 新しい挑戦と将来の展望

学生優秀発表賞の審査と表彰は例年通り行われ, 900 名を超えるエントリー者の中か 89 名が表彰されました。日本地球化学会からは稲田栞里会員 (東京大学大学院), 大槻悠太会員 (北海道大学大学院), 角南沙己会員 (東北大学), 柳澤良亮会員 (信州大学大学

院), 三國和音会員 (国立研究開発法人産業技術総合研究所), 三津川到会員 (京都大学大学院), 清原愛会員 (広島大学) が受賞されました。おめでとうございます。

関連企業や学協会, 大学・研究機関等による展示企画については, 昨年に引き続き現地でのブース出展が行われました。日本地球化学会も現地出展し, 理事にお手伝いいただき学会員入会の勧誘, ノベルティグッズ (オリジナルクリアファイルやボールペン, 蛍光ペン) や仙台年会をお知らせするチラシの配布を行いました。また昨年に引き続き, 大会ウェブサイトのトップバナーページなどにバナー広告を掲載するほか, クイズラリーにも参加しました。今年のクイズでは, 日本地球化学会の開催地について問い, クイズの答えを探しに多くの大学学部生がブースを訪れました。

来年の連合大会は, 2026 年 5 月 24 日 (日) から 29 日 (金) まで, 幕張メッセで開催される予定です。連合大会は, 様々な専門分野の研究者と交流し, 接点を作る絶好の機会です。来年も多くの日本地球化学会会員の積極的な参加をお待ちしております。

(広報委員会 JpGU 担当 小畑元, 黒田潤一郎, 広報担当幹事 山本順司)

●Goldschmidt 国際会議 2025 報告

Goldschmidt 国際会議は, ヨーロッパ地球化学連合 (European Association of Geochemistry: EAG) と米国地球化学会 (Geochemical Society: GS) が主催, 日本地球化学会が共催する国際学会で, 地球化学関連分野では参加者数が最大規模の学会です。2025 年の第 35 回会議は, 対面とリモートを併用したハイブリッド形式にて, 7 月 6 日 (日) から 11 日 (金) までの 6 日間, チェコ共和国プラハの Prague Congress Centre で開催されました。公式 SNS によると参加者はリモート参加者を含め 4,400 人を超えていたとのことです。日本地球化学会の会員として Goldschmidt 2025 に参加登録した参加者は約 40 名でした。今回の会議内容は, 例年とほぼ同様, 基調講演をのぞく 14 の科学テーマ (Theme) のもと, 各々の大テーマを 6~14 に区分した計 127 セッションが開催されました (ただし各 Theme につき 1 セッションはリモート講演のセッション)。月曜~金曜の現地時間の午前と午後には口頭発表が, 口頭発表終了後, 現地夕刻の 2 時間はポスター発表のコアタイムが設けられ, 個々の研究発表と活発な質疑が行われました。午前の口頭発表の後



写真1. Geochemical Journal Awardの授賞式にて。
左から高橋嘉夫会長，授賞者の井上裕貴会
員，鈴木勝彦GJ編集長。

にプレナリーとして月曜～金曜まで日替わりで1時間の基調講演が設けられたほか，その後にEarly Career向けのランチタイムプログラム，協賛企業によるセミナーなどが開催されました。初日の7月6日（日）にはさまざまなサイエンスワークショップやEarly Careerプログラムが開催されました。会期終了後も8月上旬までリモート発表の視聴等が可能となるなど，ハイブリッド開催ならではのメリットはシカゴと同様でした。

会期中には各賞表彰が行われました。日本地球化学会に関連するものとして，2025 Geochemical Journal Award (GJ論文賞) はYuki Inoue, Shōta Kakisako and Junji Yamamoto (2024) Raman spectroscopy to evaluate precision of oxygen isotope ratio in calcite. *Geochemical Journal*, Vol. 58, No. 6, P. 283–292でした。授賞式は現地7月8日（火）の昼頃にCongress Hall行われ，筆頭著者の井上裕貴会員（九州大学大学院）に対して高橋嘉夫会長から賞が授与されました（写真1）。大学院生がGJ論文賞を受賞するという快挙でした。この論文の受賞講演は現地7月8日（火）のセッション06e-O1— Geochemical reactions, processes, and geomaterials across the scales: computational modelling, analytical techniques, and theoretical concepts (session in honor of Andreas Lutge) の中で筆頭著者により行われました。また，



写真2. Goldschmidt2025プラハ会場での日本地球
化学会ブース。

川幡穂高会員（東京大学名誉教授，早稲田大学特任教授）にGeochemistry Fellowが授与されました。Geochemistry Fellowの称号は，EAGとGSによって，生涯を通じて地球化学の発展に顕著な貢献をした科学者に授与されるものです。授賞式は現地7月9日（水）の昼頃にCongress Hallで行われました。

日本地球化学会では，例年，Goldschmidt会議の共催学会として本会期中にブースを出展して広報活動を行っています。プラハ大会でも，現地ブースを出展しました（写真2）。学会ブースには，日本人参加者のみならず，海外からの参加者にも訪ねてきていただき，情報交換や打ち合わせの場としても利用していただいています。プラハ大会では，EAGやGSラウンジに近い13番ブースで出展し，多くの方に訪問していただきました。ブースではクリアファイルや学会リーフレットを配布しました。

次回，第37回Goldschmidt国際会議は，カナダのモントリオールのPalais des Congrès (Montréal Convention Center) で2026年7月12日～17日に開催される予定です。皆様奮ってご参加ください。

（広報・現地ブース担当 黒田潤一郎，
小畑元，山本順司）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2025年12月頃を予定しています。ニュース原稿は11月初旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会）

小木曾 哲

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院人間・環境学研究科

Tel: 075-753-2918; Fax: 075-753-2919

E-mail: news-hp@geochem.jp

山本 順司

〒819-0395 福岡市西区元岡744

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門

Tel: 092-802-4215

E-mail: news-hp@geochem.jp